

本 別 町

ほんべつちょう

面積：391.99km²
 人口：8,464人（2010年7月末現在）
 世帯数：3,941世帯（2010年7月末現在）
 町の花：エゾムラサキツツジ
 町の木：カシワ
 町の鳥：アカゲラ
 町名の由来：アイヌ語の「ポン・ベツ」（小さい・川）から。
 H P：http://www.town.honbetsu.hokkaido.jp
 E-Mail：soumuk@town.honbetsu.hokkaido.jp



道の駅「ステラ★ほんべつ」



NPO法人銀河ほんべつ
理事長

河合 篤史 さん



本別町企画振興課
商工観光・元気まち担当
十勝本別「キレイマメの会」事務局

松本 眞吾 さん



「キレイマメ」を使った人気商品

いちおしは「キレイマメ」

広大な十勝平野が広がる十勝管内では、農業王国と呼ぶにふさわしく、ジャガイモ、長イモ、金時豆、枝豆、ビートなどあらゆる種類の、美味しい農畜産物が生産されています。それぞれの自治体で得意とするものは少々異なり、本別町では「キレイマメ」というブランド名を付けた光黒大豆の生産、加工に力を入れています。その名の通り黒光りする希少価



道の駅「ステラ★ほんべつ」外観

値の高い大豆で、黒い色にはデトックス作用が期待できるポリフェノールもたっぷり。健康面で良いばかりでなく、甘みがあり、上品な味わいが楽しめ、その旨さは折り紙付きです。本別町は年間の日照時間が長く、豆の成長期から収穫期にかけて昼は暑く、夜は涼しいという一日の間に寒暖の差が激しい気象条件。そのため豆は糖分を蓄え、どこにも負けない最上質の豆を育みます。キレイマメの名前が浸透するに従い、人気も高まりつつあり、インターネットでも気軽に購入できますが、ドライブ途中に実際に商品を手にできる場所といえば、本別町の道の駅「ステラ★ほんべつ」です。道東自動車道の本別インターチェンジを降り、国道242号沿いを走っていくと間もなく見えてきます。北海道で107番目、2009年（平成21年）4月20日にオープンしました。

林業で栄えた本別町には、以前ふるさと銀河線があり、道の駅の建物は当時の駅舎を再利用。またふるさと銀河線の前は、国鉄の池北線だったという経緯があり、歴史を感じさせる跨線橋がそのまま残されています。

NPO 法人で運営し、 町民の憩いの場

平成18年にふるさと銀河線が廃止され「施設を有効に利用して、道の駅として自分たちでやります」と町民が動き、NPO法人で運営されています。理事長の河合篤史さんは「年配の方にとっては長年親しみのある場所でもあることから、町の人が集う場という位置づけです。そのあたりが、ほかの道の駅とは少し違うかもしれませんね。ですから、簡易郵便局やパン屋も入ってるんですよ」。

写真など町民の作品を展示したり、ピアノ教室も開けるホールがあり、そのホールにはメジャーリーグで活躍するイチローや松井秀喜のサイン入りバットが飾られています。本別町で製材加工されたバットでホームランを飛ばし、観客を沸かせるプロ野球選手が大勢いるわけです。

グルメの話題も見逃せず、オリジナルソフトクリームが完成しました。知る人ぞ知る地元の登坂農場のハスカップと、やはり本別町にある、甘納豆おかめ とうぼんけは全国的に有名な岡女堂本家のつゆ甘納豆をトッピングした特色ある2種類のソフトクリームです。

また商店街に目をやれば、駅近くにはスイーツのお店が何軒もあり、雑誌のグルメ情報で紹介されたのをきっかけに、シュークリームやロールケーキを目的買いしていくお客さんが増えているそうです。十勝のメジャーなスイーツもいいですが、皆と同じものではなく、「ちょっと穴場的なお店を開拓してみたい」と高速道路を使って本別を目指すのが、最近の傾向のようです。

ところでクレイマメについて、町の職員である松本真吾さんは「十勝本別“クレイマメの会”という組織では、美味しく食べられるよう積極的に商品開発に取り組んでいます。食卓の定番である納豆をはじめ、黒豆味噌、なんばん味噌、黒豆豆腐味噌漬、



ほかの道の駅ではあまり見ない「パン屋」「簡易郵便局」が入居

黒豆味噌カマンベール、素焼黒豆、黒豆ワイン煮など、どれも豆の魅力を再発見すること間違いなし！おすすめです。ぜひ、クレイマメの各種商品をお試しいただきたいですね」と、言葉にも力が入ります。

ちなみに道の駅内の中華レストランでは、黒豆味噌を使った味噌ラーメンを出していますが、「一般的な味噌ラーメンとは比較にならないぐらいコクと旨味があって、本別に来たら必ず食べる」というリピーターもいるそうです。

春はエゾムラサキツツジが美しい 本別公園

もちろん道の駅では町の観光情報を発信しています。本別町の見所といえば、まず自然の地形を生かした遊歩道や、キャンプ場、コテージなどで休日を過ごしたい本別公園があります。春はたくさんのエゾムラサキツツジが咲き、訪れる人の目を楽しませています。5月には「本別山溪つつじ祭り」も開催されます。

河合理事長は「近隣の足寄町なら松山千春さん、池田町ならドリカム（DREAMS COME TRUE）といった具合に、有名人を輩出しているだけにイメージしやすいようです。ところが、本別町というと、なかなかどうして、分かりづらいようです。クレイマメにしろ、小麦にしろ、農家の方が本当にいいものを生産していますし、商店街では一度町を離れたものの、修行をしてきて2代目として頑張っている店主もいます。道東自動車道の交通量も多くなってきたような印象ですし、十勝管内へ足を運ぶ機会があれば、本別もポイントとしておさえ、道の駅を気軽に利用していただきたいですね」と、NPOのメンバーと共に本別の活性化に努めています。



豆をモチーフにしたキャラクター「元気くん」